植物で辿（たどる）るクリスマス

※クリスマスやキリスト等に関する歴史・経緯には、諸説あります。
本表は、植物とクリスマスの関係性を解説するために咲くやこの花館が作成しました。

乳香・没薬

☆古代エジプトで
「神にささげる神聖な香り」
として用いられる

☆キリスト生誕の祝いに
三賢者が黄金・乳香・没薬
を捧げた

常緑樹
モミの仲間、ドイツトウヒ
セイヨウヒイラギなど

☆古代の樹木信仰
生命力の象徴、冬至の魔除け
として家内に飾られる

☆古代ローマでセイヨウヒイラギ
が豊神祭で使われる

ヤドリギ

☆北欧神話
ヤドリギとその宿主の樹が
聖なるものと崇められる

ナツメヤシ
果実＝デーツ

☆古代エジプトで
重要な食品として
栽培される

☆聖母マリアがキリストを
身ごもっていた時
デーツを食べていたと
伝えられる

☆旧約聖書
「エデンの園の果実」
新約聖書
「生命の樹」

☆キリスト教と融合
欧米でクリスマスの
飾りとして軒先に飾られる

☆原産地のメキシコからアメリカに
クリスマスに飾る植物として紹介される

☆現在でもアラブ諸国から
北アフリカモロッコ辺りでは、
保存が利き栄養価の高い
重要な食物となっている

☆クリスマスを飾る
植物として広がる

世界のクリスマス
（西欧・中東・ｱﾒﾘｶなど）

☆一部の教会で香として
焚かれはじめる

☆修道士ボニファティウスが
樹木信仰に対してモミの木を
キリスト教の木と定める

☆ゲッケイジュやカシ類の
小枝は神と人間が一緒になった
幼児キリストの永遠の姿と
目されるようになる

☆ドイツトウヒなどが
欧米各地でクリスマスツリー
として使われるようになる

ポインセチア

クリスマスを冠する植物
クリスマスベゴニア、クリスマスローズなど

シルクロードを通じて伝来

古代エジプト
ローマ建国
イエス誕生
キリスト教公認
西ローマ帝国滅亡
ルネサンス
産業革命

古代 / 中世 / 近世 / 近代 / 現代

6000 / 1500 / B.C. 0 A.D. / 1000 / 1500 / 2000

旧石器 / 縄文 / 弥生 / 古墳 / 飛鳥奈良 / 平安 / 鎌倉 / 室町 / 安土桃山 / 江戸 / 明治 / 大正 / 昭和 / 平成

仏教伝来
キリスト教伝来
明治維新
太平洋戦争

乳香・没薬

☆貴族の間でお香として
親しまれる

日本のクリスマス

ウラジロモミ

☆一部の教会で
香として焚かれる

☆日本では主に日本原産のウラジロモミが
クリスマスツリーとして
使われる

ポインセチア

☆クリスマスを飾る植物として広まる

クリスマスを冠する植物
クリスマスベゴニア、クリスマスローズなど

☆クリスマスを飾る植物として広まる

咲くやこの花館
「香りの実演＆
デーツの試食」